研究会（全体会）

２年生授業（平成２８年７月１４日実施）記録

幼小　子どもの主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る
～幼児と児童の数的感覚を中心に～

小　主体的に学び続ける子の育成
～実態に合った算数的活動の充実を通して～

1　授業改善のポイント（グループ協議より）

○「グルーピングと役割そして操作活動。」
- 予想→検証の流れが子どもから声が出るとよい。
- 実生活に活かせる場面があると，子どもがやりたくなる。

○「目的意識をもつ。一人一人を大切に。」
- 教師が実演している時に，予想の議論をしていても良かった。
- 「シャボン玉をつくるために分量を量る」という目的意識を初めにもてた方が良かった。
- 子どもたちだけの活動の時に，誤答に気付くことができればよかった。

○「量りたいと思う動機付け。」
- シャボン玉のことは，初めに話した方が動機付けになる。
- 時間の見通しを教師がもつことが大切。
- 量り間違いは，その時に量り直すようにしたら良かった。

○「授業の焦点をしぼる。」
- 正確に量りたい，見当をつけて量感を豊かにしたいという両方を取り入れたことによって，作業が多くなり，時間がオーバーしたのではないか。

2　指導助言

- 子どもとねらいから方法を立ち上げる授業を。
- 子どもが主体的に学ぶとは？
  とりあえず取り組むことは活動にはなるが，学びにはならない。
  子どもが何に気付いたか，気付く芽ができたかに教師が気付くことが必要。
  子どもにとっての必要感が主体的に学ぶことにつながる。
- 「あれ？おかしいな。」「たしかめたい！」を生かす授業を。
- ハプニングが気付きにつながる。教師がねらいに集中し，教師がアクティブに瞬発的にその場で授業をつくっていく。
- 教師の計画にのせるのではなく，教師が子どもの気付きに向かっていくことが大事。